

ホリスティック医学シンポジウム'97大阪

# 「癒しと生きがい」

—これからの医療におけるホリスティックアプローチの可能性—

1997年10月26日(日)  
メルパルクホール(新大阪)

主催：日本ホリスティック医学協会関西支部

# 目次

目次	1
タイムスケジュール	2
はじめに シンポジウム実行委員長 岡田俊一(健康塾代表)	3
「癒しと生きがいの心理学」 近藤 裕(ライフマネジメント研究所長)	4
「生きがいの創造」 飯田史彦(福島大学助教授)	6
「食と自然と癒し」 橋本宙八(食による体と心の癒しのスポット「マクロビアン」主宰)	8
「未病医学と癒し」 粟島行春(中日友好病院名誉教授)	10
「現代医療における癒しの可能性」 沢山俊民(川崎医大教授)	12
「癒しと生きがい」 ーこれからの医療におけるホリスティックアプローチの可能性ー 革島定雄(革島病院副院長)	14
ヒーリングコンサート 佐伯吉捷(スイスオルゴール友の会代表)	15
おわりに 日本ホリスティック医学協会関西支部長 黒丸尊治(洛和会音羽病院)	16
ホリスティック医学とは？	17
ホリスティック医学協会ご案内	18
会員募集のお知らせ	19
ホリスティック医学協会関係者著書	20
ホリスティック医学協会関西支部での行事内容	22
協賛・広告	24

## タイムスケジュール

9:30	開場
9:55	開会の辞 シンポジウム実行委員長 岡田俊一(健康塾代表)
10:00	「癒しと生きがいの心理学」 近藤 裕(ライフマネジメント研究所長)
10:40	「生きがいの創造」 飯田史彦(福島大学助教授)
11:20	「食と自然と癒し」 橋本宙八(食による体と心の癒しのスポット「マクロビアン」主宰)
12:00~13:00	昼食
13:00	「未病医学と癒し」 粟島行春(中日友好病院名誉教授)
13:40	「現代医療における癒しの可能性」 沢山俊民(川崎医大教授)
14:20~14:35	休憩
14:35	ヒーリングコンサート 佐伯吉捷(スイスオルゴール友の会代表)
15:20~15:30	休憩
15:30	パネルディスカッション 「癒しと生きがい」 ーこれからの医療におけるホリスティックアプローチの可能性ー [司会] 革島定雄(革島病院副院長) [パネリスト] 近藤 裕、飯田史彦、橋本宙八、粟島行春、沢山俊民
17:30	閉会の辞 日本ホリスティック医学協会関西支部長 黒丸尊治(洛和会音羽病院)
18:00~20:00	Net Working パーティー 会場: 点心茶廊 チャイニーズレストラン小麦 LAND 第一生命ビルB1(メルパルクホール南向かい) TEL: 06-397-0678

## はじめに

シンポジウム実行委員長 岡田俊一(健康塾代表)

今年には日本ホリスティック医学協会発足10周年の年にあたります。関西支部では現在2年に一度のペースでシンポジウムを開催しております。91年に第一回目のシンポジウムを開催して、今回で4度目のシンポジウムを開催する運びとなりました。今回のテーマは『癒しと生きがい・これからの医療におけるホリスティックアプローチの可能性』です。

「癒し」という言葉も市民権を得、一般の新聞やテレビ等でも目や耳にする機会が多くなりました。しかし言葉が独り歩きしている感もまだまだ否めません。「癒し」を標榜する講座やセミナーなども一時期に比べて、かなり整理されてきましたが、奇異なものとして受け取られているところもあるようです。しかしながら言葉の本質的な意味の是非を問うより、行動としての“癒し”が動き始めたことには、好意をもって受け入れる必要があるでしょう。われわれがホリスティック医学という抽象的な言葉の意味を模索している間にも、それぞれの現場においてホリスティックな活動が、一つのムーブメントとして始動しているようです。

個人の“癒し”から家族・社会、地球という規模での“癒し”をどのように捉え、実践していくかを皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。一人一人が自分でできることを「癒しの行為」として表現していくことは、医療という分野にこだわらなくても、ホリスティックなアプローチが可能であり、またそれはおこなって行かなければならない課題ではないでしょうか。昨今暗い話題が多い中「癒しの波動」が一つの形となり、21世紀に向けての明るい指針となればと感じております。

今回は講演者(演題)として、近藤裕氏(癒しと生きがいの心理学)、飯田史彦氏(生きがいの創造)、橋本宙八氏(食と自然と癒し)、栗島行春氏(未病医学と癒し)、沢山俊民氏(現代医療における癒しの可能性)をお迎えし、心・食・意識・医療という各々の現場から「癒しとホリスティック」について語っていただきます。後半はパネルディスカッションという形で、革島定雄氏を司会に迎え「癒しと生きがい」というテーマで話し合ってみたいと思っております。毎回好評を得ておりますリラクゼーションタイムには、佐伯吉捷氏のスイスオルゴールによるヒーリングコンサートをお楽しみいただきます。その透きとおった音色が皆様の心と体を和ませてくれることでしょう。

シンポジウム終了後にはネットワーキングパーティーをおこないます。パネリスト諸氏と直接お話ししていただいたり、さまざまな分野の方々との情報交換の場としてご利用いただければ幸いです。

最後に、今回のシンポジウムに向けスタッフ一同全力をあげ取り組んで参りましたが、至らない点も多々あると思っております、その点はなにとぞご容赦下さい。末筆ながら皆様のご健康とご繁栄を心よりお祈り申し上げます。

# 癒しと生きがいの心理学

ライフマネジメント研究所長・サイコセラピスト  
近藤 裕

二人の娘の自立に続いた、夫の定年退職を目前に控えた頃から“うつ”になり、やる気や生きがい感を喪失した女性の事例を主軸に、「生きがい感」が病と癒しにどのように関わっているかを考えた

い。  
「生きがい」は、「生きる目的とその達成感にある」(大井 宏)という定義に従い、生きがい感を求める人間の欲求を、マズローの段階的基本的欲求の考え方に従い検討しよう。

さらに「癒し」という広くて深い概念を定義し、キュアとケアの関連性を考え、「癒し」におけるケアの在り方が「生きがい感」に与える影響を考えたい。

最後に、医療関係者にとって、ケアの表現としてのカウンセリングマインドとスキルの習得の必要性を論じたい。

## プロフィール

近藤 裕 (こんどう ひろし)

昭和3年生まれ

ライフマネジメント研究所長

教育学博士(臨床心理学)、サイコセラピスト

もっとも人間らしい生き方の研究を続ける永遠の青年。米国での17年間の研究と臨床経験に基き、外国、国内で、教育、臨床、数多くのワークショップ、企業むけセミナーなどの講師を務める。「心の問題」の専門家。

## 推薦図書

「全人的健康とは」(春秋社:昭和59年)

「病人と医者の人間学」(春秋社:昭和59年)

「がんを克服し生きる」(創元社:昭和63年)

「医者に行く前に気付く本」(日本教文社:平成5年)

「こころのケア」(日本能率協会マネジメントセンター:平成9年)

# 生きがいの創造

福島大学助教授  
飯田史彦

私は、大学の経営学教官として「人事管理論」を研究しているために、人間の「働きがい」や「生きがい」と呼ばれるもの、あるいは「幸せ感」について、寝ても覚めても考えています。とりわけ、最近では、各地で、「生きがいのマネジメント」というテーマで講演を依頼されることが増えており、この問題の重要性が、ますます強まっていることを痛感しています。

……(中略)……

大学教官という立場から、人々の相談を受けることは少なくありません。しかし、恋人に去られた女性、志望校に落ちた受験生、希望企業に入社できなかった四年生に対してさえも、一個人として差しのべる手だてはかぎられています。ましてや、障害を持つ方やそのご両親、事故で手足を失った若者、夫に先立たれた新妻、不治の病におかされた患者さんたちを、ほんの小さな存在にしかすぎない私の力で、どうやって元気づけることができるでしょうか。

もちろん、「元気を出してがんばれ」と、激励することは簡単です。けれども、生きがいを見失った人々は、「生きる力の源泉」そのものを失っていることが、少なくありません。いわば、電池の切れた装置が、スイッチを入れても動かないのと同じ状態であり、ただ「いつまでもスイッチを切っていないで入れてみるよ」と声をかけるだけでは、効果は望めないのです。

このような、「生きがいの源泉を失ってしまった人々」が、現在、私たちのまわりにはあふれています。会社の中にも、学生たちの中にも、家族や親族の中にも。そして、今日は希望に満ちあふれている親友が、もしかすると、明日にはすべてを失って、倒れてしまうかもしれません。その時、私たちは、すっかり涸れつきってしまった「生きがいの源泉」を、どうすれば、よみがえらせてあげることができるのでしょうか。

もしも、「死後の生命」や「生まれ変わり」が事実であると仮定すれば、私たちの日常の小さな不満は無意味なものとなり、何の価値も持たないように見えた不幸や挫折が、逆に重要な意味をおびてくる可能性があります。それらの知識は、どのような激励の言葉よりも強力な、「生きがいの源泉」となってくれるかもしれません。

……まだ若い、駆け出しの経営学者にすぎない私が、人間の本質的な「生きがい論」として、「死後の生命」や「生まれ変わり」の研究に目を向けようと決心したのは、このような理由からでした。そして、その瞬間から私は、伝統的な「経営学」のわくをはみ出し、「人間学」ともいべき広大な研究領域のジャングルへと、無謀にも踏みこんでしまっていたのです。

……「生きがいの創造」(PHP研究所刊)より

## プロフィール

### 飯田 史彦 (いいだふみひこ)

1962年(昭和37年)、広島県生まれ。学習院大学大学院経営学研究科博士課程を経て、27歳の時、国立福島大学経済学部経営学科に助教授として赴任、現在に至る。その間、筑波大学大学院経営システム科学、東北大学大学院経営学研究科、東北学院大学商学部などの講師を兼任。日本広報学会の理事を務めるほか、日本経営学会、組織学会、経営哲学学会、労務学会、経営学史学会の会員。専攻分野は、人事管理論、企業文化論、経営戦略論。著書に、「こだわりの人材採用戦略～量から質へのリストラクチャリング」(中央経済社)、「共生と連携の地域創造」(八潮社、共著)、その他、学術論文・論説多数。

いちばんの楽しみは、愛する家族(妻・娘)と過ごすこと。JR全線を完乗したほどの旅行好きであり、山や高原や田舎道を歩いて、大自然を満喫するのが趣味。華道の皆伝免許を持ち、日本の歴史や伝統文化も研究中。運動神経はゼロに近く、スポーツは、まったく苦手としている。いかなる宗教からも中立であり、正月には神社に詣で、盆には寺に参り、クリスマスにはツリーを飾る、典型的な「雑宗教」の日本人ひとりである。

## 食と自然と癒し

食による体と心の癒しのスポット「マクロビアン」主宰  
橋本宙八

「ヒーリング」という言葉の意味は、「ひとつの全体にすること」であり、私たちのいのちが、「まったき状態とバランスを回復すること」と言われています。自然は、あらゆる多様な生き物が一つになっている全体であり、そうであるがゆえに私たちは、海や山の自然の中に身を置くだけで、ある種の癒しの感覚を覚えるのでしょう。

「食」は、大地や水、光や空気といったあらゆる自然のエネルギーが転換、凝集したものですから、「食べる」という行為は、食物を介して、すべての自然環境をいのちの中に取り込む作業でもある訳です。

つまり、それは、自己のいのちを大自然に調和させ、一つの全体になろうとする絶えざる「ヒーリング」の行為そのものでもあるのです。

文明社会というもう一つの環境の中で、失われた全体性をいかに回復させられるか？、癒しにおける食の役割について、改めて考えてみたいと思います。

## プロフィール

橋本 宙八(はしもと ちゅうや)

食による体と心の癒しのスポット「マクロビアン」主宰、地球と子供の未来のために「2050」事務局長、「国際老子研究会」事務局長、人体科学会学術会員、ホリスティック医学協会々員、咀嚼学会会員、中国徐州老子食研究会顧問。

1947年新潟県に生まれる。桐朋学園大学演劇科卒業。自由で創造的なからだとところをいかに創るかという演劇探究の道から、ヨガ、断食などの体験を経てマクロビオティックに出会う。食の持つ哲学に魅かれ、以来、この道の研究、実践24年。1978年、結婚を機に、食の研究と子育てのために東京から福島県いわき市の山奥に移住。大自然の中で暮らし、野菜作りもしながら5人の子供を動物性食品一切なしの純正菜食で育てている。この間、半断食による体質改善法を独自に探究、自宅で毎月開かれるセミナーでは、16年間で千人以上の人々を指導。社会活動にも関心を待ち、1991年、ベラルーシのミンスクで開かれたチェルノブイリ原発事故の被災者である子供たちを救援するための国際会議に参加、放射能被爆者にとっていかに自然な食物によるケアが大切であるかを講演、この会議がきっかけとなって、2年にわたり、合計9人のチェルノブイリの子供たちを1ヶ月間自宅に招き静養させる。1994年、発展途上国の環境、人口、女性、貧困問題等を広く社会に啓蒙し、支援するNGO(非政府組織)「2050(ニセンゴジュウ)」の創立に参加、また、マクロビオティックのルーツである老子の研究にも強く関心を抱き、1994年、中国で開かれた国際老子会議に出席、その年、国内に国際老子研究会を創立、共に事務局長となる。自宅で「半断食セミナー」を毎月主宰し、食による健康指導、講演、執筆などを日々の仕事としている。

## 推薦図書

「東洋医学の哲学」 桜沢如一(日本CI協会)

「脱牛肉文明への挑戦」 ジェレミー・リフキン(ダイヤモンド社)

「ホワイトホール・イン・タイム」 ピーター・ラッセル(地湧社)

# 未病医学と癒し

中日友好病院名誉教授  
栗島行春

未病という文字が中国医学の古典に出現したのは「黄帝内経、素問、靈枢」および「八十一難経」などで、以降すべての医書には「上工は未病を治して既病を治さず」と記載されるようになった。それは、すでに用いられた用語の「予防」という言葉に対比して、医学用語となったのは、予防医学が、人間以外の外邪を退治するという発想に対し、未病は人間そのものの「備え」に重点をおいた為である。近代西洋医学の出発が「予防医学」であったことに対して、「未病」は、人間の生きる力にその原点を求めたのである。

「癒し」は、生きる力に他ならず、生きる力は、生存、生活、生命の根源の解明であり、「病」そのものの解明ではなく、病む人間の存在理由の解明であるため、西洋医が「未病」を口にする時「健康と病気の間に未病がある」という不可解な説明にならざるを得ないが、真の未病は病むことなき生命の解明への道である。

## プロフィール

栗島 行春 (あわしま ゆきはる)

1926年 北海道生まれ

1950年 北海道農業試験場に勤務中に地域病研究を発願し全国を廻る。

1950年秋 農医一体論提唱、農薬禁止運動展開。

1955年 河内長野市役所のなかに「村づくり運動本部」を設置、「春光苑事務所」と名乗った。

1959年 「VS<sub>34</sub>」を発明。栗島生物学研究所発足。

1968年 日本学士会より生物学部門にてアカデミア賞を受賞。

1970年 未病医学会の創立を志して設立発起人となる。

1986年 香港国際中医中薬総会の名誉会長

1994年 中日友好病院中西結合研究室 名誉教授

1996年 広州中医薬大学 客員教授

1996年 中華医学会(傷寒学研組) 客員教授

## 著書

「日本農業革新論」、「VS<sub>34</sub>の研究」、「白砂糖の害毒」、「自然への回帰」、「驚異のプルーン」、「薬性能毒」、「アボカードの話」、「医心方食養篇」、「建殊録」など多数

現在、春光苑漢方薬局の経営。春光苑漢方研修会主宰。著述と講演に全国を行脚。未病シリーズ(MICミック)主宰

# 現代医療における癒しの可能性 —その気になれば—

川崎医科大学内科教授・循環器内科部長  
沢山俊民

- 私の二つのところ(「心臓」から「ハート」へ)
- 川崎医科大学設立の理念—「人を造る」、「病気より病人をみよ」
- 昨今の医学界での話題—「ホリスティック医学」「自然治癒力」の台頭
- 阪神大震災と医療—「素手の医療」
- 私と全人医療との関わり
  - ・宇宙・天文への憧れ→五感(問診・視診・触診・聴診)を用いた医療(診断)
  - ・治療医学から予防医学・健康科学に関心
  - ・親友医師の難病が「気学」により改善
  - ・患者の「臨死体験」に接して
  - ・私が「医療気功師」になるまで→その後の活動
- 現代医療の現伏は—長所と短所
  - ・農村型(農耕型)の疾病構造から都市型(狩猟型)の疾病構造へ
  - ・医療提供者(医者)と医療受入者(患者)の関連は
  - ・「早期発見」や「早期診断」は正当か—健康診断・人間ドックの評価は
  - ・なぜ医療費は高騰し、病人は増えるのか
  - ・検査づけ、薬づけは何故か
  - ・医療費はタダがアダ(仇)!
  - ・でも、五感に頼る医療のみでは医者は失業する
  - ・皆さん医者の言いなり—自分の車(クルマ)の方が命(イノチ)より大切か
  - ・臓器別の医療(専門化)は是か非か
  - ・人間は部品(臓器)の集まりか
  - ・ここまで来た先進医療—臓器移植、遺伝子治療は
  - ・日本と欧米の国民性の違いは
  - ・日本人の役割は
- これからの医療はどうあるべきか
  - ・日本人も意識改革を
  - ・現代医療(治療医学) + 予防医学・健康(科)学・生命(科)学
  - ・DからPへ(Doctor→Patient, Drug→Prevention, Dictation→Practice)

## プロフィール

### 沢山 俊民 (さわやま としたみ)

「たくさん・しゅんみん」と発音すれば、「たくさんの人民を賢く(俊-しゅん)する」という役割を持っていることになる。

昭和50年から岡山県は倉敷市にある川崎医科大学で、教授兼循環器内科部長として、学生の講義に加えて、週に3回心臓病患者の外来診療を担当し、常時30名内外の入院患者を診断・治療し、かたわら一般市民に対しても生活習慣予防などの啓蒙活動を行っている。

- ・昭和9年、神戸市で出生。
- ・昭和34年、京都府立医科大学を卒業。
- ・昭和36年、東京大学医学部第二内科に、昭和42年から3年間、米国のエール大学医学部心臓内科にそれぞれ留学し、心臓血管病について研鑽を積む。
- ・趣味は、クラシック音楽の鑑賞、宇宙観測、読書(生命論、未来書)など。
- ・数年来、現代医療のみでは不十分と感じ、全人医療(ホリスティック医学)に関心を持つ。従来から、視診・触診・聴診という「五感診断法」をマスターし、宇宙にも興味があり、平成6年3月(還暦の誕生日が初日)、伊豆市下田の第40回医療気功師養成講座に参加し、「医療気功師」の初級資格を取得した。
- ・専門分野での学会活動以外に、平成6年6月「21世紀の健康を考える」日本厚生協会の理事に推薦され、「ホリスティック医学協会」にも入会した。
- ・以後、現代医療と全人医療の関連で多くの人々と交流を重ね、平成6年9月、中国上海市での第5回国際気功シンポジウムに要請があり、参加した。
- ・平成7年4月、「ホリスティック岡山」「いのちと健康の集い」を発足させ(代表世話人)、以来、研究会や講演会を主催している。
- ・平成7年5月、「第三医学研究会」の会長に推薦され、以来、医療関係者などと研究会(講演会、研究発表会)を開催している。
- ・「教えない教育、治さない医療」を目指している。

#### ○参考文献

- ・沢山俊民: HEART&I(心臓と私). 日本医事新報. 3626号. 平成5年10月
- ・沢山俊民: 医師である私による私語り. 日本医師会雑誌 114:898. 平成7年8月
- ・沢山俊民: 現代医療の問題点. 日本医事新報. 3683号. 平成6年11月26日
- ・沢山俊民: ホリスティック・マガジン. 平成7年号.
- ・日野原重明: 「生活習慣病」がわかる本. ごま書房. 東京. 1997

## パネルディスカッション 「癒しと生きがい」

ーこれからの医療におけるホリスティックアプローチの可能性ー

司会: 革島定雄

### プロフィール

#### 革島 定雄 (かわしま さだお)

1949年大阪生まれ。1974年、京都大学医学部卒業後、京都大学第一外科に入局。1984年京都大学医学部大学院博士過程単位取得退学。日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝臓学会、日本東洋医学会、日本心身医学会、日本癌治療学会などに所属。現在、革島病院副院長。

#### ・論文その他

癌の生存時間研究会誌 vol. 14-17に「QOL評価の問題点」など4論文を発表

絶食研究 No.15-16に「断食療法と心身相関」を掲載

ハッピーエンド誌57-63号に掲載された連続特集「ハッピーな生と死」および自由討議集会「漢方薬『再評価』検討フォーラム」に参加

メディカル・カンポー誌 No.14-17に掲載された座談会「西洋医学と漢方の未来像を探る」に参加

アトピーネットワーク「リボーン」誌9-10号にインタビュー記事「病気をきっかけにつなかりを回復しよう」を掲載

#### ・推薦図書

「クン氏のおだやかでラジカルな日常」 松本東洋(アズ工房)

「無境界」 ケン・ウィルバー著、吉福伸逸訳(平河出版社)

「十牛図」 山田無文(禅文化研究所)

## ヒーリングコンサート

スイスオルゴール友の会  
佐伯吉捷

スイス製のオルゴールで、この4年間に、沢山の病気が治っています。その臨床例が多くなるにつれて、オルゴールの持つ音の特性が身体に与える影響について、大変興味を持つことになりました。本日のコンサートは、心を癒す、身体を癒す、音楽療法としてのヒーリングコンサートです。

オルゴールは生の音楽を自動で演奏する、優れた特性を持ちます。最近、このオルゴールの音に、可聴域(20Hzから20kHz)を超える低周波、高周波(0から100kHz)が同時に出ていることが判明しました。一方昨年、文部省の外郭団体の研究で、低周波、高周波が同時に出ているときのみ、特に脳幹の血流を促進することが証明されています。

スイスで200年の美しい音の追求が、自然倍音を豊富に持つことになり、より脳神経を刺激し、自律神経を正常にし、自然の治癒力を増して、多くの病気を治すなら、現代人にとって、大いに朗報ではないでしょうか？ お楽しみ頂きたいと思います。

### プロフィール

#### 佐伯吉捷 (さえき よしかつ)

昭和13年5月20日 香川県生まれ

佐伯貿易株式会社 代表取締役社長

経歴:北九州大学卒業後、貿易会社に入社。昭和42年音楽出版社を経て、昭和50年スイス製オルゴール・民芸品販売を個人創業。

昭和54年佐伯貿易株式会社設立。

平成4年横浜元町店を開設。

平成9年1月スイスティールームをオープン。

会社設立と同時期にスイスオルゴール友の会を作り、代表として全国にスイス製オルゴールの普及に努める。

## おわりに

日本ホリスティック医学協会関西支部長 黒丸尊治

この度、大阪で開催される4回目のホリスティック医学シンポジウムを皆様にお届けできることを大変嬉しく思っております。今回は実行委員の数もずいぶんと増え、各々の立場から様々な意見を出しあいながらテーマや企画を立てていきました。そのためシンポジストも、各分野の第一線で活躍されている方々にお願いすることができ、今までになく充実したシンポジウムになるものと確信しております。

最近では随分とホリスティック医学の名前も知られるようになり、また様々なところでホリスティックな医療を実践される方も増えてきたことはとても嬉しく思う反面、ホリスティック医学はただ単に、自然治癒力を高め、様々な治療法を組み合わせる病気の治療だとして誤解されているところがあるのも事実です。そこで今回は、「癒しと生きがい」というテーマを選び、本当の意味でのホリスティック医学というものをもう一度考え直し、それが現代医療においてどのような役割を果たし得るかといったことについてディスカッションしていきたいと思っております。そしてこのような作業の積み重ねが、本来のホリスティック医学のあるべき姿を浮きぼりにし、さらには今後の現代医療の在り方や方向性にも影響を与えていくものと思っております。

今回の企画が、今後のホリスティック医学の新たな発展へとつながり、また参加者の皆様にとっても実多きものとなりますようお願いいたします。最後に、今回のシンポジウムにご協力下さった各種団体の皆様や個人の方々、そして貴重な時間を割いて準備に奔走下さった実行委員の皆様方に心より感謝申し上げます。

## ■ホリスティック医学とは？

Holistic (ホリスティック) という言葉は、ギリシャ語のholos (全体) を語源としています。そこから派生した言葉に、whole, heal, holy, health…などがあり、健康—health—という言葉自体がもともと「全体」に根ざしています。現在、「ホリスティック」(Holistic) という言葉は、「全体」「関連」「つながり」「バランス」といった意味をすべて包含した言葉として解釈されています、的確な訳語がないため、そのまま「ホリスティック」という言葉が使われていますが、意味する内容は決して新しく輸入された考えではなく、もともと東洋に根づいていた、包括的な考え方に近いものといえます。日本ホリスティック医学協会では次のように定義しています。

### ホリスティック医学の定義

・ホリスティック(全的)な健康観に立脚する

人間を「体・心・気・霊性」等の有機的統合体ととらえ、社会・自然・宇宙との調和にもとづく包括的、全体的な健康観に立脚する。

・自然治癒力を癒しの原点におく

生命が本来自らのものとして持っている「自然治癒力」を癒しの原点におき、この自然治癒力を高め、増強することを治療の基本とする。

・患者が自ら癒し、治療者は援助する

病気を癒す中心は患者であり、治療者はあくまでも援助者である。治療よりも養生が、他者療法よりも自己療法が基本であり、ライフスタイルを改善して患者自身が「自ら癒す」姿勢が治療の基本となる。

・様々な治療法を総合的に組み合わせる

西洋医学の利点を生かしながら、日本をはじめ、中国、インドなど、各国の伝統医学、心理療法、自然療法、栄養療法、食事療法、運動療法、民間療法などの種々の療法を総合的、体系的に組み合わせ、最も適切な治療を行う。

・病いへの気づきから自己実現へ

病気を自分への「警告」ととらえ、人生のプロセスの中で、病気をたえず「気づき」の契機として、より高い自己成長、自己実現をめざしていく。

## ■日本ホリスティック医学協会のご案内

本会は、1987年9月30日に誕生した団体で、ホリスティック医学の発展及び各種療法の協力、統合と学際的な研究の推進をはかり、人類の健康の増進とホリスティック医学と健康の概念の普及をはかることを目的としています。

一般会員の方には、主体的に健康や医療に関わっていくことができるように、トータルな健康の増進やセルフコントロールのための情報の提供を行ない、さらには「医療のスペクトル」を体系化することで各種療法の位置をわかりやすく紹介していきます。

医療関係の方には、ホリスティックな医療現場の体験のチャンスを提供し、めざすトータルな治療家への成長を援助するとともに、治療家同志の連携、協力の援助をしていきます。

特に現場での体験を大切にしながら、トータルで学際的な研究をすすめてゆくために、幅広い領域の人々の参加を心から期待しており、ひらかれた柔軟な組織として活動をすすめています。

現在、医師、歯科医師、鍼灸師、医療関係者をはじめ、一般の健康、医療に関心のある方々が、各種集會に意欲的に参加されています。

※本会は、いかなる政治、宗教団体にも属さぬ非営利団体です。

## ■日本ホリスティック医学協会事業案内

### ○各種集會

1.フォーラム

2.セミナー

3.ワークショップ

4.シンポジウム

5.特別企画

< 学術研究室主催 >

1.研究会

2.医の哲学を考える会

3.総合臨床研究会

4.伝統思想と自然治癒力研究会

5.自然療法研究会

6.歯の身体学研究会

### ○出版物

1.ニューズレター「Holistic」

2.協会年度誌「ホリスティックマガジン」

3.研究誌「ホリスティック医学研究」

4.書籍

「ホリスティック医学入門」(柏樹社)

「生命のダイナミクス」(柏樹社)

「あなたの自然治癒力をほりおこせ」(リヨン社)

## ■会員募集のお知らせ。

当協会では、皆様のためにわかりやすく“ホリスティック”を紹介してまいります。また、様々な楽しいイベントも用意しております。ぜひ、ご入会下さい。

### ○会費

	入会金	年会費
専門会員	2000円	10000円
一般会員	2000円	7000円
学生会員	1000円	3000円
賛助会員	10000円	一口以上(一口20000円)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門会員とは、医療従事者および関連領域の研究者とする。</li> <li>・一般会員は、専門会員と学生会員を除く個人とする。</li> <li>・学生会員は学生とする</li> <li>・賛助会員は、本会の事業を賛助する個人または団体とする。</li> </ul>		

### ○特典

- 1.ホリスティック医学に関する情報の享受。
- 2.協会の催すシンポジウム、セミナーおよびその他各種の集会の通知および参加費の割引引き。(あるいは無料参加)
- 3.機関誌の無料購読

### ○申込方法

会費の納入は郵便振込か現金書留で、入会「希望」の旨を明記の上、日本ホリスティック医学協会にお送りください。

郵便振込口座番号 00160-0-250991 日本ホリスティック医学協会

日本ホリスティック医学協会  
〒160 東京都新宿区西新宿8-12-1 サンパレス新宿609  
TEL. 03-3366-1380 FAX. 03-3366-1375

■日本ホリスティック医学協会関係者著書

書名	著者	発行社	定価	送料
ホリスティック医学入門	日本ホリスティック医学協会編	柏樹社	¥ 1600	¥ 350
生命のダイナミクス	日本ホリスティック医学協会編	柏樹社	¥ 2000	¥ 350
ホリスティック医学ガイド	日本ホリスティック医学協会編	リヨン社	¥ 1200	¥ 350
魂の癒し手	A.ビゾルト, S.クリップナー 東長人 監訳	春秋社	¥ 2500	¥ 350
ナチュラル・ハイ	上野圭一	海竜社	¥ 1300	¥ 350
人はなぜ治るのか	アントル・ワイル 上野圭一 訳	日本教文社	¥ 2400	¥ 350
ガンを治す大事典	帯津良一	二見書房	¥ 2500	¥ 420
ホリスティック医学の治癒力	帯津良一 監修	法研	¥ 1900	¥ 350
人のからだはなぜ治る	大塚晃志郎	ダイヤモンド社	¥ 1700	¥ 350
癒しのしくみ	樋田和彦	地湧社	¥ 1850	¥ 350
ガンのセルフコントロール	カール・サイモン、ステファニー・サイモン 河野友信ほか訳	創元社	¥ 2500	¥ 350
病になる・病が治るということ	山下剛	草風館	¥ 1500	¥ 350
がんを癒す家族	ステファニー・サイモン、ロバート・シュック 菅原はるみほか訳	創元社	¥ 2800	¥ 420
タオの流れにのって	横山瑞生	たにぐち書店	¥ 3399	¥ 350
体に「ごはん」が一番	幕内秀夫	風濤社	¥ 1500	¥ 350
体によい食事だめな食事	幕内秀夫	風濤社	¥ 1500	¥ 350
「がん治癒への道」	カール・サイモン 堀雅明ほか訳	創元社	¥ 2600	¥ 350
人が自然に癒される時	藤岡義孝	柏樹社	¥ 1850	¥ 350
心と体の健康百科	伊藤真愚	佼正出版社	¥ 1600	¥ 350
自己治癒力の医学	平松園枝 監修	光文社	¥750	¥ 350
内なる可能性	平松園枝	誠信書房	¥ 3090	¥ 420
ヒーリング・ボディ	上野圭一	海竜社	¥ 1400	¥ 350
人のからだをどう治す	大塚晃志郎	柏樹社	¥ 2000	¥ 350
気・甦る生命場	帯津良一	スリーエー・ネットワー ク	¥ 1800	¥ 350

街の書店では書籍の回転が早く、なかなか手に入らない場合もあります。事務局では協会関係者の著書を何種類か用意しております。購入ご希望の方はお申し込み下さい。

※申込方法 郵便振替:00160-0-250991「日本ホリスティック医学協会」へお振込み下さい。振込用紙の通信欄に、申し込まれる書籍名と冊数、郵送料の明細をご記入下さい。(一冊ふえるごとに70円増)

●日本ホリスティック医学協会

〒160 東京都新宿区西新宿8-12-1 サンパレス新宿609

TEL. 03-3366-1380 FAX. 03-3366-1375

●関西支部

〒520-01 滋賀県大津市下阪本6-25-17-204

TEL. 0775-78-6868 FAX. 0775-78-6841

●中部支部

〒488 愛知県尾張旭市長坂町南山2874-165

TEL. 0561-54-3578 FAX. 0561-54-2404

●広島事務局

〒732 広島県広島市東区戸坂大上4-1-13

TEL. 082-229-2900 FAX. 082-229-2900

●福岡事務局

〒815 福岡県福岡市南区長丘5-23-1-101

TEL.092-551-8614 FAX. 03-3366-1375

■日本ホリスティック医学協会関西支部での行事内容

●セミナー

第1回	89. 5.12	山下 剛 中川米造	「ホリスティックな健康観・医学観とは」 「ホリスティック医学の現代的意義」
第2回	89. 6.25	寺山心一翁 伊丹仁朗	「医学の気づきと患者の気づき」 「ガンの精神神経免疫学」
第3回	89. 7.23	藤岡義孝 大塚晃志郎	「実践的ホリスティック医学論」 「自然治癒力を活かす治療法」
第4回	90. 4.15	中川米造	「ガン克服への可能性について」
第5回	90. 5.20	伊丹仁朗	「精神的アプローチでガンに克つ」
第6回	90. 6.17	蔵田英太郎 中村照正	「ガンと気功」—気功の立場から
第7回	90. 7.15	中川俊二	「ガンの自然退縮症例から学ぶ」

●ホリスティックフォーラム

第1回	90. 9.16	山口卓三	「食養と自然治癒力」
第2回	90.10.28	帯津良一	「東西医学融合の試み」
第3回	90.11.18	清水 巍	「喘息よ、ありがとう」
第4回	91. 1.20	藤岡義孝	「食・自然・調和の医学」
第5回	91. 2.24	橋本行生	「医療をささえる死生観」
第6回	91. 3.24	上野圭一	「人はなぜ治るのか」
第7回	91. 4.21	橋爪 誠	「病は気からの科学」
第8回	91. 6.16	黒木賢一	「癒しの心理学」
第9回	91. 8.25	菅原はるみ	「リラクゼーションのすすめ」
第10回	91.12.15	革島定雄	「ガン・癒し・ホリズム」
第11回	92. 2. 9	児玉和夫	「現代に生きるアーユルヴェーダ」
第12回	92. 4.19	福田純子	「笑顔による意識革命」
第13回	92. 6.21	伊藤真愚	「東洋医学の知恵」
第14回	92. 8.23	堀 雅明	「内なる治癒力の探究」
第15回	92.10.28	アンドルー・ワイル	「ワイル博士、ホリスティック医学を語る」
第16回	93. 1.24	北村翰男	「操体—自然法則にもとづく新しい医学」
第17回	93. 4.18	カール・ベッカー	「死とは何か—臨死現象からの再考」
第18回	93. 7.25	野田俊作	「自分を変える心理学」
第19回	93. 9.15	樋田和彦	「“癒し”への探索」
第20回	93.11.24	ダニエル・ケンナー	「ハーブのすべて」
第21回	93.12.19	高木善之	「転生と地球」
第22回	94. 2.27	山下 剛	「時間・空間・病」
第23回	94. 4.24	江部康二	「アトピーへの挑戦」

第24回	94. 6.26	カール・ベッカー	「超自然現象の科学的考察」
第25回	94. 8.28	伊丹仁朗	「生きがい療法」
第26回	94.10.23	藤岡義孝	「エコ・ホリスティック医学」
第27回	94.12. 4	吉田敦彦・中川吉晴	「ホリスティック教育から学ぶ」
第28回	95. 2.26	横澤和也	「ヴォイスヒーリング」
第29回	95. 4.23	甲田光雄	「少食に病なし」
第30回	95. 6.25	あんがいおまる	「わたしは宇宙」
第31回	95. 8.27	石川光男	「“いのち”を活かす医療」
第32回	95.12.10	昇 幹夫	「あなたの笑顔、なにより薬！」
第33回	96. 1.28	林 伸光	「香りの科学」
第34回	96. 3.24	岩崎正春	「サイコシンセシス入門」
第35回	96. 5.26	芳野 香	「自己再発見の技法」
第36回	96. 7.28	幕内秀夫	「混乱した食生活情報を読む」
第37回	96. 9.22	米 強	「中国元極功法への招待」
第38回	96.11.24	中川 晶	「心理療法の新たなる潮流」
第39回	97. 1.26	石丸裕高	「身体は全て知っている」
第40回	97. 3.23	長谷川信博	「ホリスティック医療における薬の功罪」
第41回	97. 5.25	船越康弘	「健康は台所から」
第42回	97. 7.27	旭丘光志	「生活習慣病の時代が機能性食品の癒しの意味を照らしはじめた」

#### ●阪神大震災特別企画

95. 4. 9	黒木賢一	「大地の揺らぎと心のケア」
95. 5.25	名田 茂	「救いと報い」

#### ●シンポジウム

91.10.10	「癒しのネットワークキング」
	ー健康をめぐる意識革命 21世紀へむけてー
	中川米造、石川光男、中井吉英、藤岡義孝、津村 喬他
93.10.17	「癒しのメカニズム」
	ー生と死を越えて いのちのスパイラルー
	アンドルー・ワイル、今田求仁生、黒木賢一、武井秀夫、帯津良一、樋田和彦他
95.10.17	「病いからのメッセージ」
	ー共存・調和・気づきの医学を求めてー
	中川米造、中井吉英、上田紀行、山下 剛、カール・ベッカー他
97.10.26	「癒しと生きがい」
	ー現代医療におけるホリスティックアプローチの可能性ー

## 協 賛

三共株式会社  
エーザイ株式会社  
大塚製薬株式会社  
株式会社ヤクルト本社  
株式会社ツムラ  
藤沢薬品工業株式会社  
萬有製薬株式会社  
持田製薬株式会社  
武田薬品工業株式会社  
株式会社ピオネ

### ホリスティック医学シンポジウム'97大阪実行委員

実行委員長:岡田俊一(健康塾代表、健康塾SBバランス整体院院長)

事務局長:黒丸尊治(洛和会音羽病院心療内科副部長、

日本ホリスティック医学協会関西支部長)

実行委員:愛場庸雅(大阪市立大学耳鼻咽喉科講師)

井上智恵(⑭トータルタートルカンパニー)

上村千鶴(鍼灸師・アロマアーティスト、

チャイニック・メディカル倶楽部アンフィニ)

木村 泉(社会保険京都病院健康管理センター部長・内科医長)

河野 渡(河野歯科医院院長、歯学博士)

迫田敬一(鍼灸師・くれクリニック)

竹林直紀(関西医科大学心療内科医師)

野網昭南(漢方の養生舎主宰、薬剤師、薬学修士)

森 優也(鍼灸師、大阪鍼灸専門学校非常勤講師、

チャイニック・メディカル倶楽部アンフィニ)

山田義焔(慈恵クリニック院長)

若木久暉(機能回復療法研究所代表)

若林俊美(Three in oneファシリテーター、こーらる代表)

ホリスティック医学シンポジウム'97大阪抄録集

---

日本ホリスティック医学協会関西支部

〒520-01 滋賀県大津市下阪本6-25-17-204

TEL. 0775-78-6868 FAX. 0775-78-6841

ホームページ <http://www.win.or.jp/~kenko-jk/holistic>